

「何もやるな」と大書。
会田誠の都市計画論！

浅田 今日とは表参道駅の近くにある青山クリスタルビルで開催された会田誠展『GROUND NO PLAN』に来てる。実はこの会場が『トランク』ってホテルの準備室だったとき一度対談会場に使ったことがあるんだけど……。

田中 そのずっと前、バブル時代には、マハラジャ系の『キング&クイーン』というデイスコだった。

浅田 そんな会場で開かれたこの展覧会は、大林財団が「都市のヴィジョン」と称して始めた助成プログラムの第1弾だけど、オリンピックに向かって暴走する安倍晋三と小池百合子の東京を徹底的に批判し尽くすって意味で、よくやったと思うね。

田中 建築系だけでなく美術系やデザイン系の来場者がたくさん来ていた。沢田研二の『カサブランカ・ダンディ』をもじって「ヒトラー・ユーゲントからドイツ空軍で戦い、戦後は現代美術家として、更には緑の党の欧州議会議員候補、反核運動の中心人物として1986年に死去した不思議なアンガージュマンの）ヨーゼフ・ボイス、あなたの時代はよかった、アーティストがピカピカのサギでいられた」と歌い上げ、ヘンタイよいこ系のクリエイターたちに踊らされた連中が今では「意識高い系」を装いながら、その内実はネトウヨもどきと似たり寄ったりなお寒い現在の状況を皮肉るあたりも鋭すぎるよ。

浅田 破壊的なパロディである半面、案外建設的だよ。戦時中に坂口安吾が書いた『日本文化私観』で、法隆寺も平等院も焼けちゃっていい、公園を菜園にしても食

田中康夫

今月の憂いト

会田誠の展覧会から、現代日本の建築界、北朝鮮との対話、そしてモリカケ「国難」まで。

東京・北青山の青山クリスタルビルで開催された会田誠展『GROUND NO PLAN』の攻撃的、かつ建設的な作品を鑑賞した田中・浅田両氏。急転直下米朝会談に向かう世界の動きや、森友問題で末期症状を呈する安倍政権について語り合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰



談呆国憂

season 2 VOLUME 94

つていけばいい、生活の必要が大事だつて言ってるのを受けて、雑草栽培室をついたり、新宿御苑を森に戻すよう計画したり。そもそも3階以上の建物を建てるのは傲慢だつていう「セカンドフロアリズム草案」もおもしろかった。

田中 彼は集合住宅でも2階までしか日本では住んだことがないのに、唯一ニューヨークでは6階か7階に住んでしまいい、それは俺の負の歴史だと(爆笑)。あと、海外の都市にはハドソン川やセーヌ川、テムズ川があつて、東京にも隅田川や多摩川があるのに、川がランドマークにすらなっていない状況で、なのに親水性という「寄り添う」言葉だけを多用して、相変わらずのコンクリートに芝生を植えるだけの設計しかないことも、彼は嘆いている。東京タワーとスカイツリーという電波塔以外に、ランドマークとして認知されている建物が東京にはないと。あるとしたら、フィリップ・スタルクが設計したアサヒビールの「金のウンコ」と、戸建て住宅の庭に置かれた淀川製鋼所のヨド物置くらいだと(苦笑)。「何もやるな」と大書された立て看板があつたように、哲学があると言われてきた日本の建築家がやってきたことは何だったんだ、ご託を述べずに黙って職人に徹しろつて警句だね。

のようなユニット派以降、最近ますます強まってきた建築界の流行は、「都市の隙間でもうまくリノヴェーションしてシェアすれば楽しい『みんなの家』になる」つて感じ。東日本震災復興にあつて伊東豊雄の提起した「みんなの家」がそこに重なる。いかにも低成長とSNSの時代らしい流行だけど、葛藤なきシェアリングで社会が成り立つなら世話はないんで、どうも浅薄な「仲良しごっこ」に終わりがちなんだな。たとえば藤本壮介が夫婦と息子・娘の4人家族のために建てた仕切りのない家が有名



エゴを押し付けて勝ちにくいんじゃないつて言うんだけど、つまりはゼネコンとクライアントの言うとおりに器用に安く仕上げるつてこと、新国立競技場の一件を見てもそれは明白でしょう。

田中 「ギャラリー・間」に展示されていた作品も、注文建築の良い作品を施主と膝をつき合わせて造り上げる市井の設計者という具合になっていない。「神山町プロジェクト」えんがわオフィス」という作品にも見られるように、これが新しいコミュニティの純文学でござるという主張になつてい

だけで、じゃあセックスはどうするのか。喧嘩したとき個室に籠ることもないのか。

田中 乃木坂の「TOTOギャラリー・間」で開かれていた『「緑」—ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館帰国展』

を見ても、そういう感じだったね。

浅田 そう、「エコロジカルかつソーシャルな循環に開かれた共生空間」のオン・パレードだけど、まるでおもしろくない。むしろん、こういう「みんなの家」の流行は建築界の表層の現象で、深層では隈研吾の「負ける建築」が支配的になつて。建築家が

るんだよね。

浅田 「みんなの家」も「負ける建築」も思想じゃない。むしろ、自分の思想を打ち出して批判されたくない、環境や他者と適度

に馴染合つていくほうが楽だつていう、SNS時代の処世術でしょう。そりゃ、会田誠も言うとおりに、建築家が勝手なデザインを押し付けるよりは害が少ないかもしれないけど、可能性は感じられないんだな。

むしろ、そういうヌルイ状況だからこそ、会田誠の大胆な提案はよかつた。大林財団も、理事長の大林剛郎が世界の現代美術界

を知ってるだけに、ここまで好きにやらせたのはさすが。

田中 いやあ、感服した。ゼネコン批判の展覧会かと早とちりした古いOSの皆さんのためにも、再度、開催してほしいね。

大林組では、大阪大学工学部卒でテクノ事業創成本部長として再生可能エネルギー事業を担当してきた人物が社長に就任した。東大工学部建築学科卒が保守本流の社長、談合等の汚れ仕事を引き受けるのが早稲田の理工学部卒の役員、建築や土木の部門が本業のゼネコンでは良い意味での異例の人事。建設事業と非建設事業の比率を半々にしていく方針らしい。

僕が2001年2月に、公共事業のあり方を「造るから治す、そして創るへ」と発想転換すべきだと「脱ダム宣言」を出したけど、その後に清水建設で副社長となつた人が、これからは建設や土木ではなく維持修繕の時代だと言つていたので、今回の大林組の人事は同じ哲学だね。アジアや中近東で請け負う際の価格競争では中国や韓国(韓国)の企業に負けてしまう。しかし、建物や隧道・橋梁等の維持修繕の技術は日本に一日の長があると。その意味では、原発マシーン(原子力発電機)の名譽会長が東京ドーム46個分もの土砂を排出する前近代的なリニア中央新幹線に前のめりなJR東海を巡る今回の談合疑惑で、最終的にはゼネコン4社が起訴されるとはいえず、大林組と清水建設が即座に非を認め、最後まで意地を張つていたのが逮捕者を出した鹿島と大成建設だったのは非常に象徴的。

浅田 司法取引制度導入を先取りするかのよう、先に談合を自主申告すると刑事告発見送りや課徴金減免の措置が受けられる制度が導入されて、大林組と清水建設が

「裏切った」って見方もあるけれど、時代の変化とともに脱皮してかきやいけないうって意識を持つてるのは確かだね。

田中 もう一つ、篠山紀信が福島第1原発の廃炉作業を撮った写真集『すごい廃炉』を出版した。篠山が言うには、あそこで毎日6000人もの作業員が働いていて、廃炉の想定費用は現時点でも8兆円。30〜40年かけても完了するかわからない。出口のない出口に向かって現場は懸命に働いている。他方で「帰還困難区域」の双葉町の中学校舎には、その日に卒業式を迎えた生徒たちが「残り約2時間を楽しもう!!」と大きなハートと寄せ書きの中に「高橋先生泣くなバカやろー」と記された黒板がそのまま残っていて、最後の頁に載せている。いろいろな意味で「すごい」廃炉だと。喜寿を迎えた「激写」の篠山紀信はいい仕事をしている。

「裏切った」って見方もあるけれど、時代の変化とともに脱皮してかきやいけないうって意識を持つてるのは確かだね。

「転じて宥和政策」 北朝鮮の目論みは？

浅田 前回の対談で、平昌オリンピックの後に北朝鮮問題で展開があるかもしれないって言ってたわけだけど、日本時間で3月9日午前、北が南の外交団を通じてアメリカとの首脳会談を提案、トランプ大統領がそれを受諾するっていうまさかの展開には、さすがに驚いた。

田中 大局を見れば、北朝鮮に核を持たせてしまったんだから、経済的・外交的な圧力を加えながら対話のテーブルに着いて貰うしかないのは明々白々だった。レアアースが中国の埋蔵量の6倍、軍需産業に必須なタンングステンやウランの埋蔵量が全世界の半分を占める北朝鮮の「優位性」を熟知するエクソソモンビル元・CEOレック

ス・テイラーソン、「戦わずして勝つ」の「孫子」を座右の書とする国防長官のジェームズ・マティスだけでなく、実はドナルド・トランプも「対話の場に引き出す為の圧力」と文在寅大統領との電話会談で述べているんだからね。

浅田 事前に文在寅が「トランプ大統領がリードして強い圧力をかけてくれたおかげ」って褒め上げたのはうまいね。他方、アメリカ以上に強硬な姿勢を買ってきた安倍政権は、梯子をはずされた格好。

むろん、危険なギャンブルだとは思いう。トランプは他方で対話路線を主張してきたテイラーソンをツイッターで解任、強硬派のマイク・ポンペオ中央情報局長官を後任の国防長官に指名したけど、議会の承認はこれから。韓国大使に内定したヴィクター・チャは「鼻血作戦」に反対して降ろさ

北朝鮮に対してアメリカ以上に

強硬な姿勢を貫いてきた安倍政権は

梯子をはずされた格好。(浅田)



田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。http://tanakayasuo.me



れ、これまで北朝鮮問題を担当してきたジョセフ・ユン特別代表も辞任した。外交当局が空っぽの状態、トランプが暴走することになりかねない。しかし、専門家に任せてたら膠着状態が続き、その間に北が核開発をやっちゃったんだから、この件についてはトランプのスタンドプレーに賭けてみてもいいかも。金正恩とは案外話が合うんじゃない？ 少なくとも、北がまず核放棄を約束しないかぎり対話に応じないなんて硬直した対応よりは、とりあえず会って話だけでもいいよ。

田中 それにしても、「日米は100パーセント共にある」と豪語してきた日本は朝鮮半島問題で「蚊帳の外」だと海外メディアは辛辣に報じている。長期安定だった佐藤栄作政権は1971年7月、リチャード・ニクソン大統領の中国電撃訪問が公式発表

されるわずか3分前に電話で伝えられ、そこから退潮に向かった。今回は日本は、対北朝鮮特使団長を務めた韓国の鄭義溶(ジョンウイヨン)国家安全室長と会談後に記者発表の場へと移動するトランプが、携帯電話を掛けてきて知った。3分でもなく10分前だったので日米関係は不変だと強がられてもね。

参院外交防衛委員会がパイプ役を申し出した訪朝32回のアントニオ猪木に、「対話が朝鮮半島の非核化につながらなかった『過去の教訓』に学べ！ 二元外交ならぬよう訪朝は自粛せよ」とドヤ顔で稽古を付けた河野太郎は、その翌日に米朝会談が発表されると親しい記者に「スピードが速すぎる」と思痴る始末(苦笑)。対米安全保障ライオン担当で閣僚級の鄭が、米中露首脳には報告に出向き、日本に来たのは官僚の徐薫(ソウフン)国情報院長だった。

2002年・2004年の「小泉訪朝」以来、歴代首相はおろか、2006年の第1次安倍内閣から2回の政権交代を挟んで計17人の拉致問題を担当した大臣は1人として訪朝していない。どうして胸元に青いバッジを着けないんだと県知事や国会議員時代にデイスられたけど、その僕に言わせりゃ、青いバッジ族こそが被害者と家族・親族を「圧力鍋」の中に押し込め続けていたんじゃないの？ 春分の日(21日)になってもスウェーデンの外務大臣に電話会談で「圧力」強化を呼びかけたと番記者に誇らしげに語る日本の外務大臣の脳みそをMRIで覗いてみたいよ(涙)。

浅田 ちなみに、「ウィンストン・チャーチル——ヒトラーから世界を救った男」は、チャーチルが英国首相になってドイツとの戦争を決意するまでを描く映画で、主演のゲイリー・オールドマンがアカデミー主演

男優賞を、驚異の特殊メイクで彼をチャールに化けさせた辻一弘がメイクアップ賞を受賞したけど、あれを観ると「宥和」を軽蔑の対象にしちゃった20世紀の歴史の呪縛をあらためて痛感するね。簡単に言えば、ヒトラーが常識を超えた悪人だったせいで、「宥和」を目指したネヴィル・チェンバレン英国首相は愚かな腰抜け、対して超タカ派だったチャーチル（植民地で虐殺を繰り返した白人至上主義者でもあった）やフランクリン・ルーズヴェルト米大統領は先見の明のある英雄だつてことになっちゃったわけ。実際は、開戦前にヒトラーが本当にユダヤ人絶滅を実行するとまで予想するのは不可能で、チャーチルやルーズヴェルトも、そこまで見抜き、確かな見通しの下に開戦に踏み切ったわけじゃない。また、もし宥和が実現したら、あそこまでひどい大戦争にはならず、長期的には、日独伊三国も、1975年までフランシスコ・フランコのファシスト政権が続いたスペインみたいな道をたどってたかもしれない。むしろ、独裁下の国民にとっては、たまたまもんじゃないかと思うよ。同様に、北の国民には悪いけど、とりあえず南北朝鮮が戦争なしに棲み分けられるんだつたら、それで内発的な変化を待つしかない。右翼帝国主義も左翼リベラル帝国主義も、北の国民の人権を守るために軍事介入も辞さないっていうけど、それは悲惨な結果を招きかねない。

田中 まったくだ。今回はベルリンの壁を一気に壊した東西ドイツ統一と同じステップを踏む必要はないでね。

浅田 だから、トランプはチャーチルやルーズヴェルトじゃなく、アメリカの参戦に反対したチャーلز・リンンドバークを目標



**その昔の自民党には日本のために
助言・諫言・提言をする人物がいたけど、
今や絶滅危惧種になっちゃった。(田中)**

せばいいんじゃないかな。ヨーロッパの戦争に巻き込まれるのを恐れたリンンドバークのスローガンも「アメリカ・ファースト」だったんだから。

**森友問題が墓穴という
「出口戦略」に!?**

浅田 そうこうするうち、小学校建設を指す森友学園に国有地が格安で払い下げられた件で、近畿財務局が財務省理財局から佐川宣寿局長の国会答弁と矛盾する決裁付録文書の改竄を指示され、担当職員が自殺したことが判明、国税庁長官に昇進していた佐川は辞任を余儀なくされた。

公文書の改竄が大問題だし、国会にもそれが提出されたわけで、これはさらなる大問題。政府・自民党は佐川の尻尾切り

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

です。まあそうとしてるけど、とてもそれですむ問題じゃない。南スーダンに派遣された自衛隊の日報に「戦闘」と書かれてた、その日報の存在を防衛省が隠蔽した問題や、「働き方改革」で裁量労働制を拡大するため厚生労働省が調査データを捏造した問題なんかとも併せ、隠蔽や改竄に政治家が関与してなかったかも含めた徹底的な事実究明と抜本的な改革が急がれる。

ただ、公文書の改竄だけが問題じゃない。改竄によって消された部分を見れば、安倍首相夫妻が応援してた、教育勅語を児童に暗唱させるという極右思想教育で悪名高い森友学園の元理事長・籠池泰典のために、神道系右翼「日本会議」の主要メンバーである首相や麻生太郎・鴻池祥肇・平沼赳夫らの政治家サイドから近畿財務局に働きかけがあった、そのことを隠したがつてるの

は明らか。もし政治家からの違法な介入まではなかったにせよ、官僚が彼らの意思を村度して森友学園の小学校建設のために法を曲げ国有財産をただ同然で売った、そういう構造自体が大問題なんで、むしろその政治責任が問われなきゃいけないね。

田中 おっしゃるとおりだ。校了日の現時点では佐川元長官の証人喚問を衆参両院で3月27日に開催する日程が決まったところだけど、その儀式で終息するとは到底思えない。森友学園との売買契約を締結した2016年6月20日の僅か3日前に理財局長から国税庁長官に就任し、現在は三井不動産の顧問を務める迫田英典にも「製造物責任法」に基づく説明責任が求められている。事務次官や主計局長でもない理財局長が2015年7月の就任から半年間に、新聞の「首相動静」で確認できるだけで5回も官邸で面談しているのだから。

それにしても19日の参院予算委員会で、ネットウヨだのネットサポと呼ばれる連中と同じレベルの青山繁晴と和田政宗を登板させて、旧・民主党のお家芸だったブーメランを遙かに超えた自爆テロみたいな質問を繰り返させた自民党の危機感のなさには驚いた。一向に「出口戦略」を示せない日本銀行の黒田東彦総裁に代わって、墓穴という「出口戦略」を示すなんて、2012年12月から5年3か月、「ニッポン凄いゾ論」の空気が世の中に蔓延する中、積極的にも消極的にも自民党に期待していた有権者を欺く話だよ。その昔の自民党には後藤田正晴や野中広務、亀井静香といった日本のために助言・諫言・提言をする人物がいたけど、今や幹事長の二階俊博ら数人を除いて絶滅危惧種になっちゃった。いやいや、深刻な事態だよ。